



2025 年 5 月 12 日

会 社 名 株式会社ヒューマンクリエーション
ホ ー ル デ ィ ン グ ス

代 表 者 名 代表取締役社長 富 永 邦 昭
(コード番号：7361 東証グロース)

問 合 せ 先 取 締 役
管 理 本 部 長 河 邊 貴 善

(TEL. 03-5157-4100)

ヒューマンクリエーションホールディングスが 2025 年 9 月期第 2 四半期決算を発表
2 Q 単期売上高は前年同期比 **16.3%増**、営業利益は同 **22.7%増**、
通期業績予想は **3 億円増**の 8,906 百万円に修正

当社は、本日 2025 年 5 月 12 日、2025 年 9 月期 第 2 四半期決算を発表致しました。
売上高は、前年同期比 16.3%増の 2,057 百万円、営業利益は同 22.7%増の 165 百万円。注力する戦略領域は、24/9 期下期より徐々に積み上げた案件実績をアピール材料とした営業活動が本格化し、前年同期比 35.5%増と 1 Q に引き続き高伸しました。なお、2025 年 4 月 1 日に、M&A 仲介業を手掛ける HC フィナンシャル・アドバイザーを完全子会社化したことによる連結効果を加算したこと、また、投資有価証券評価損 77 百万円を認識したことにより、売上高は前回発表予想を上回り、当期純利益は下回る見通しとなりましたので、修正を行うことといたしました。詳細につきましては、添付のプレスリリースをご参照ください。

-----以下プレスリリース-----

■2025 年 9 月期 第 2 四半期ハイライト

【2 Q 業績サマリー】

売上高は前年同期比で 16.3%増の 2,057 百万円、営業利益は同 22.7%増の 165 百万円となりました。特に戦略領域の売上高は 35.5%増加し 752 百万円と順調に進捗しています。なお、2 Q 累計の売上高は 4,071 百万円、営業利益は 378 百万円で、それぞれの進捗率は、連結業績予想の修正値に対し、売上高が 45.7%、営業利益が 59.6%となっています。

四半期業績実績と増減率

(百万円)	24/9期			25/9期		増減率	
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	YoY,%	QoQ,%
売上高	1,769	1,844	1,902	2,013	2,057	+16.3%	+2.2%
└戦略領域	555	558	573	667	752	+35.5%	+12.8%
└SES	1,214	1,286	1,328	1,346	1,305	+7.5%	△3.0%
EBITDA	167	213	208	244	200	+19.7%	△18.2%
営業利益	135	180	175	212	165	+22.7%	△21.9%
親会社株主利益	91	109	113	132	41	△54.4%	△68.3%
EPS*(円)	27.86	33.38	34.72	40.60	13.03	△53.2%	△67.9%
調整後 EPS*(円)	27.86	33.38	34.72	40.60	37.02	+32.9%	△8.8%

【売上高と EBITDA の四半期推移】

過去2四半期、戦略領域はQoQでも2桁増収を確保し全社成長を牽引しています。一方、SESは戦略領域への人員シフトや旧CLSの離職増もあり、QoQで減収となりました。引き続き採用費を投入し、増員・定着に注力してまいります。全社EBITDAは、前年同期比で19.7%増と、採用費等の先行費用が高まる中でも増益を確保しました。売上高の増加に伴い限界利益が拡大しています。

25/9期 第2四半期業績

売上高とEBITDAの四半期推移



過去2四半期、戦略領域は**QoQでも2桁増収を確保**し全社成長を牽引している。一方、SESは戦略領域への人員シフトや旧CLSの離職増もあり、QoQで減収となった。採用費をかけ増員・定着に引き続き注力する。

売上高とEBITDAの四半期推移



注：EBITDA=営業利益+高価償却費+その他償却費+のれん償却費、にて算出している。

© 2025 Human Creation Holdings inc.

- 25年1～3月期の全社売上高は、YoY**16.3%増**の2,057百万円だった。
- 重視する戦略領域は、24/9期下期より徐々に積み上げた**案件実績をアピール材料とした営業活動が本格化**し、YoYで**35.5%増**と大幅成長、全社成長を牽引した。
- SES売上高は、SES人員数がYoYで**4.8%増加**し収益寄与した。加えて、採用強化の一方で案件アサインが遅れ稼働率が低かった24/9期2Qと比較して**稼働率が改善**した。結果、売上高は**7.5%増**の1,305百万円と着実に増収した。一方で、戦略領域への人員シフトや旧CLSの離職増もあり、QoQでは減収となった。
- 25年1～3月期の全社EBITDAは、前年同期比で**19.7%増**と採用費等の先行費用が高まる中でも**2桁増益を確保**した。売上高の増加に伴い限界利益が拡大した。

11

【バランスシートと自己資本比率の四半期推移】

25年3月末の自己資本比率は**39.5%**で、目安とする財務レバレッジへの回帰を実現しました。引き続き、資金効率よく創出Cashを再投資または株主還元に向け、スピーディな企業価値向上を実現してまいります。

25/9期 第2四半期業績

バランスシートと自己資本比率の四半期推移



25年3月末の自己資本比率は**39.5%**で、目安とする財務レバレッジへの回帰を実現した。

引き続き、資金効率よく創出Cashを再投資または株主還元に向け、スピーディな企業価値向上を実現する。

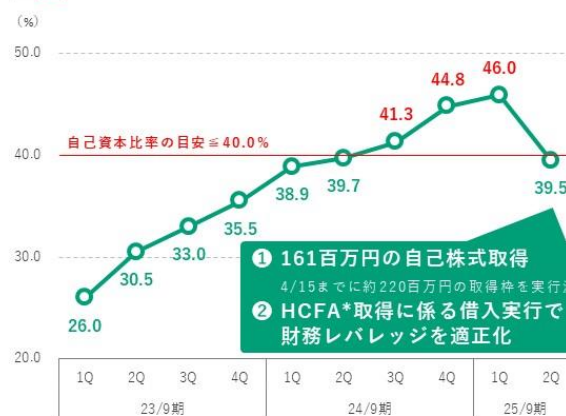
直近四半期のバランスシート

	25/3末		25/3末
(百万円)		(百万円)	
資産合計	3,365	負債合計	2,012
└流動資産	2,380	└買掛金/未払金/未払費用	634
└現金預金	1,200	└有利子負債	701
└売掛金	993	└未払法人税	132
└固定資産	984	純資産合計	1,352
└のれん	472	└自己資本	1,329

注：財務資本戦略として、「持続的成長に向けた再投資原資の確保」を大前提とする一方、仮に十分な投資機会に恵まれない場合は、①資金効率の向上を図ると共に、②株主の期待に報いるため、資金を追加的な株主還元に向け、ことを基本的な考え方をしている。その一環として、「自己資本比率40%以下の維持」を基本方針とし、4四半期連続で基準を超過しないよう、自己株式取得等の手段により、資本構成の適正化を適時に図ることを掲げている。HCFA=㈱HCフィナンシャル・アドバイザー（旧㈱ベアキャピタル）の略称である。

© 2025 Human Creation Holdings inc.

自己資本比率の四半期推移*



- 161百万円の自己株式取得
4/15までに約220百万円の取得枠を実行済
- HCFA*取得に係る借入実行で財務レバレッジを適正化

14

■ 通期業績予想の修正

2025 年 4 月 1 日に、M&A 仲介業を手掛ける H C フィナンシャル・アドバイザーを完全子会社化したことによる連結効果を加算したこと、また、2023 年 4 月 25 日に公表した(株)アドバンスト・メディアとの資本業務提携に関連し当時市場買付した同社株式の株価下落に伴う投資有価証券評価損 77 百万円を認識したことにより、売上高は 8,906 百万円（前期比+24.3%）、当期純利益は 327 百万円（前期比-19.1%）となる修正を行いました。

25/9期 通期計画の進捗状況

25/9期 通期業績予想の修正



HCFAの新規連結効果とアドバンスト・メディアの評価損影響を新たに織り込み、**期初業績予想を修正**した。業容拡大とトップライン成長に拘り、適正な費用投下を進める中計2ndステージに沿った経営を継続する。

修正予想値と期初予想との主な差分

	24/9期	25/9期	25/9期		
	金額	金額	金額	前期比	期初計画差
売上高	7,165	8,606	8,906	+24.3%	+300
└ 戦略領域	2,190	2,922	—	—	—
└ SES	4,975	5,683	—	—	—
EBITDA	759	773	—	—	—
営業利益	631	635	635	+0.7%	±0
親会社株主利益	404	404	327	△19.1%	△77
EPS（円）	123.11	124.35	103.48	△15.9%	△20.87
調整後 親会社株主利益*	404	404	404	+0.1%	±0
調整後 EPS*（円）	123.11	124.35	127.84	+3.8%	+3.49

HCFAの新規連結効果と、
投資有価証券評価損を新たに織り込み

- ・ HCフィナンシャル・アドバイザーの新規連結効果を加算した。買収初期であるため、換算を見直しを繰り込んだ。
- ・ SES人員の戦略領域へのシフトが進んでおり、柔軟なアサインによる事業推進期待の機動力を高めるための、領域別内訳は非開示とする。
- ・ HCFAに係るのれん償却費と新規連結効果は概ねオフセットされる見込みのための営業利益は期初予想値を据え置く。
- ・ PPA*が完了しておらず、のれん償却年限が最終確定していないため、EBITDA計画は非開示とする。
- ・ 2023年4月25日に公表した(株)アドバンスト・メディア(3773)との資本業務提携に関連し、両社が互いの株式約1.5億円分を市場買付し保有していたが、昨今の株価下落を受け25年3月末時点の株式評価額が低下したため、2Q決算において約77百万円の投資有価証券評価損を認識した。修正予想においても、この点を新たに反映した。
- ・ 投資有価証券評価損を除く修正ベースでは、営業利益以下の各段階利益は期初予想を据え置く。調整後EPS*は、自己株式取得効果分を新たに織り込み上方修正している。

注：調整後親会社株主利益および調整後EPSは、アドバンスト・メディアに係る投資有価証券評価損77百万円の影響を排除した修正値である。PPA=Purchase Price Allocation（取得原価配分）である。
戦略領域の売上高は、コンサルティング及び受託開発・運用を手掛ける子会社(ACF/SLG/HMB/COSMOPIA/TARA)の売上高と、BKSの受託案件を累計している。一方、SESの売上高は、BKSのエンジニア派遣業務にかかるとCLIS(2024年10月1日付でBKSに吸収合併)の売上高、及び一部発生している内部取引高を累計している。なお、EPSは業績・計画共に、2024年11月に公表した株式分割考慮後の修正値である。

© 2025 Human Creation Holdings inc.

■ 通期計画の進捗状況

25/9 期の通期業績予想の修正に対する 2Q 進捗率は、売上高が 45.7%、営業利益が 59.6%を確保しました。上方修正後の売上高の進捗率は 50%を下回るものの、QoQ のオーガニック成長に加え、H C フィナンシャル・アドバイザーの新規連結効果もあるため達成可能と見ています。

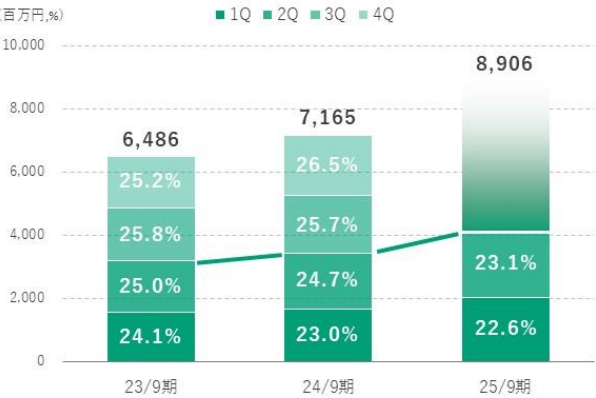
25/9期 通期計画の進捗状況

25/9期 第2四半期の進捗状況（対業績修正予想*）

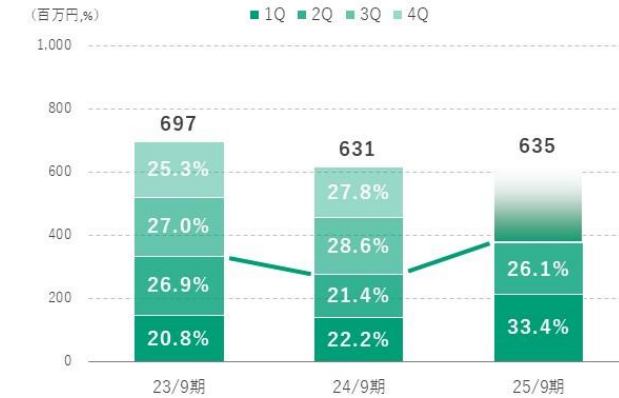


25/9期の通期業績予想の修正に対する2Q進捗率は、**売上高が45.7%、営業利益が59.6%**を確保した。上方修正した売上高の進捗率は50%を下回るが、QoQのオーガニック成長とHCFA新規連結効果があり達成可能と見ている。

売上高の進捗率



営業利益の進捗率



注：25/9期は通期業績予想の修正に対する計画進捗率である一方、24/9期以前は通期実績を分母に進捗率（構成比）を算出している。

© 2025 Human Creation Holdings inc.

■中長期経営方針（再掲）

【計数計画】

24/9 期は戦略領域の計画未達幅が大きくギアの入れ替えが必要と判断したことから、2024 年 11 月に、30/9 期を最終年度とする 6 ヶ年の中長期経営方針にリバイス致しました。

計数計画につきましては、2nd ステージ最終年度にあたる 27/9 期は、M&A を含む積極投資による規模拡大と事業構造の転換をテーマに、売上高 12,000 百万円を実現いたします。3rd ステージは、投資回収とシナジー創出に重きを置き、最終年度である 30/9 期に、EPS1,000 百万円（24/9 期比 4.0 倍）と、ROE30%超にこだわります。なお、EPS は、2024 年 11 月に発表した株式分割考慮前の数値であり、**株式分割考慮後の目標値は 500 円**となります。



【中長期経営方針における HCFA 買収の位置付け】

完全子会社化によって、HC フィナンシャル・アドバイザーの業績が新規連結されるだけでなく、当社と HC フィナンシャル・アドバイザーの知見を掛け合わせることで、経営コンサルティング領域への業容拡大とシナジー創出による既存事業の成長加速が可能となります。当社が中長期経営方針で掲げる EPS1000 円（分割後 500 円）の達成確度向上に寄与するものと考えています。

中長期経営方針

中長期経営方針における HCFA 買収の位置付け

HCFAの業績が新規連結されるだけでなく、経営コンサルティング領域への業容拡大とシナジー創出による既存事業の成長加速により、中長期経営方針の早期達成を目指す。



- 新たなM&A案件による成長
- HCFAによるM&A仲介手数料による成長
- 既存事業のオーガニック+シナジーによる成長



■EPS1,000 円へのシナリオ

EPS 1,000 円（株式分割後 500 円）の実現に必要な 4 大要素を順に反映する 4 つのシナリオによる補足説明です。

シナリオ A：過度に資金を滞留させない、シナリオ B：M&A など再投資を強化する、シナリオ C：M&A シナジーを創出する、シナリオ D：各子会社で持続成長をする、としてシミュレーションによる数値計画も公表しています。なお、本シナリオは一定の条件設定に基づくシミュレーションであり、中長期経営方針としてコミットする値ではない点にご留意ください。

EPS 1,000 円の実現に向けた補足説明

EPS 1,000 円の実現に向けた補足説明



新中長期経営方針の発表後、投資家より「EPS 1,000 円の蓋然性が分からない」とのコメントを受けました。このため、EPS 1,000 円の実現に必要な 4 大要素を順に反映する 4 つのシナリオによる補足説明を用意しました。

一定の条件設定に基づくシミュレーションであり、中長期経営方針としてコミットする値ではない点に、予めご注意ください。

	シナリオ A	シナリオ B	シナリオ C	シナリオ D
1	過度に資金を滞留させない	過度に資金を滞留させない	過度に資金を滞留させない	過度に資金を滞留させない
2	M&A など再投資を強化する	M&A など再投資を強化する	M&A など再投資を強化する	M&A など再投資を強化する
3	M&A シナジーを創出する	M&A シナジーを創出する	M&A シナジーを創出する	M&A シナジーを創出する
4	各子会社で持続成長する	各子会社で持続成長する	各子会社で持続成長する	各子会社で持続成長する
	仮に全く収益拡大せずとも、財務適正化→自社株買いで、EPS は 6 カ年で 564 円になる	売上高 5 億円、利益率 5-6% の企業を毎期 1 社 M&A でできれば、EPS は 6 カ年で 748 円になる	売上高 +5%、利益率 +0.1ppt のシナジーが毎期実現できれば EPS は 6 カ年で 1,016 円になる	25/9 期の売上高計画を達成し、以降 +10%/年売上成長すれば、EPS は 6 カ年で 1,850 円になる

注：2025 年 1 月 1 日を効力発生日に 1 : 2 の株式分割を実施しております。本分割を考慮すると、目標 EPS は 500 円となります。

■詳細のご案内

詳細は当社 IR ページに掲載している 2025 年 9 月期 第 2 四半期 決算説明資料をご確認ください。
URL : <https://hch-ja.co.jp/ir/news/>